



2010/12/18

TWS hongo

第5回展覧会企画公募

Emerging Artist Support Program 2010

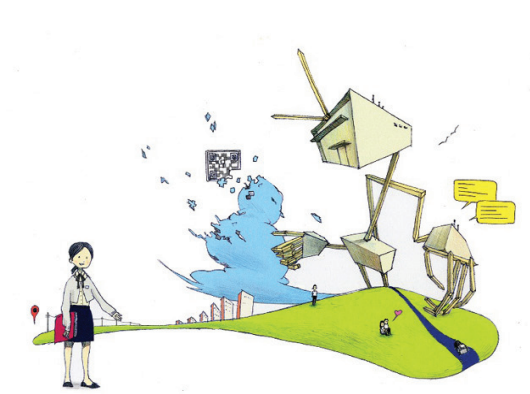
2011/2/26 田 - 3/27 日 トーキョーワンダーサイト本郷

選出企画

1F 企画者: クラウディア・ラルヒャー | Claudia Larcher | 企画名: ELASTIC VIDEO – curated by PLINQUE

2F 企画者: 佐々木 友輔 | Yusuke Sasaki | 企画名: floating view " 郊外 " からうまれるアート

3F 企画者: 松井えり菜・村上華子 | Erina Matsui, Hanako Murakami | 企画名: Girlfriends Forever!



Emerging Artist Support Program 2010
展覧会企画公募

展覧会チラシ・ロゴデザイン: 宮村ヤスヲ

企画概要

企画者（キュレーター）を志し活動している若手実力者への支援・育成を目的とした展覧会企画そのものを公募するプログラム。2006年からはアーティストだけでなく、企画者（キュレーター）を志し活動している方々に対する支援育成を目的として、若手企画者による展覧会企画の募集を開始しました。これまでに実施した公募のなかでは、企画者（キュレーター）からの応募に加え、アーティスト自身による（本人を含む）グループ展の企画も多く寄せられ、なかでもアーティスト自身によるセルフプロデュース企画内容の多くは、既成のジャンルに分類できない新しいアートを試みるものが多く見られました。5回目となる2010年度は、将来キュレーターをめざし活動する方、またはセルフプロデュースによる企画を考えているアーティストの方からのなど、自薦・他薦を問わず新しい発想とエネルギーに満ちた44企画の応募数から3企画が選出されました。

開催概要

| | |
|----------------|------------------------------|
| ■会期 | 2011年2月26日（土）～3月27日（日） |
| ■会場 | トーキョーワンダーサイト本郷 |
| ■開館時間 | 11:00～19:00（最終入場は30分前まで） |
| ■休館日 | 月曜日（祝日の場合は翌火曜日） |
| ■入場料 | 無料 |
| ■オープニング・レセプション | 2011年2月26日（土）17:00～19:00 |
| ■主催 | 公益財団法人東京都歴史文化財団 トーキョーワンダーサイト |

会場案内

トーキョーワンダーサイト本郷

〒113-0033 東京都文京区本郷2-4-16

TEL: 03-5689-5331

FAX: 03-5689-7501

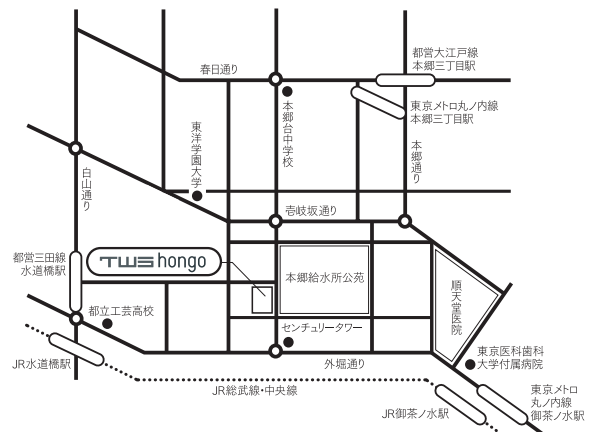
■交通案内：御茶ノ水駅・水道橋駅（JR総武線）、

水道橋駅（都営地下鉄三田線）、

御茶ノ水駅・本郷三丁目駅（東京メトロ丸ノ内線）、

本郷三丁目駅（都営地下鉄大江戸線）各駅より徒歩7分

駐車場はございませんので、お車でのご来館はご遠慮下さい。





2010年度審査員講評

う〜ん、去年に比べて面接の語りは立派になったけど、肝心の企画の内容はというと、まだ低調と言わざるをえないかなあ。どうして日本人の企画は"軽く" なっちゃうんだろう。ついエンタメ入れちゃう、というか。やっぱり「アートは基本シリアス」と考えた方がいいと思いますよ。僕が言うのもナンだけど。ただでさえオルタナティブな場が少ない東京、TWSはなるべく日本人に使わせたいと思っている者なんですけど・・・。

会田誠 (美術家)

夏に実施したキュレーション・ゼミを通し、展覧会企画の意義について事前に議論できたことは効果があったのか、全体的に良質の提案が多かった。二次審査に残った提案のいくつかでは、アナログーデジタル、ヴァーチャルーリアル、パラレルワールドといった切り口で情報化、デジタル化の進む現代社会における何らかの「実感」を求める姿勢が共通してみられた。最終選考に残った佐々木さんのテーマ「郊外」は綿密な考察を経たものだったが、実際の作品との結びつきがより明快になるようさらに吟味されたい。その他いずれの提案も企画の必然性、具体的な出品作品の質、展示から想像される観客の体験を総合的に勘案しつつ、最終的には実際の展覧会を見てみたいと思わせる提案が選ばれたように思う。

片岡真実 (森美術館チーフ・キュレーター)

作品を作る必然と展覧会を作る必然はどう違うのか。そのあたりから考え始めるのがいいのではないかと思う。展覧会の存在意義は作品単体のとき以上に、その時間的空間的座標軸を明確にするべきだ。「いま、ここ」。いまの時代の、ここ東京で展覧会を作る (あるいは始める) ということ。

最終的に実現できるのは3つの展覧会だけだが、見てみたい展覧会はそれ以上あった。どれにも共通するのは、「いま、ここ」で、人に見せたい、伝えたいのだという気持ちが届いたことだ。

今回は片岡真実さん発案によるキュレーション・ゼミが功を奏し、レベルがより高まってきたと思う。キュレーションの総合力 (企画力、統率力、広報力など) が問われる展覧会そのものの公募という、稀なチャンスを今後も活かしてほしい。

鈴木芳雄 (エディトリアル・コーディネーター)

本年は、このプログラムに関する説明会に加え、展覧会を企画する上での意義と要点についてのキュレーション・ゼミも開かれました。また、海外からの応募も増え少しずつプログラムは充実してきました。これまで2次審査におけるプレゼンテーションは、海外の応募または海外で学んだ者がコンセプトもクリアであり、どの様な立ち位置からの提案であるかも含めて圧倒的に優れていて、審査員としては、日本の教育に大きな疑問を抱かざるを得ないことが続いていました。しかし、今回2次審査のプレゼンテーションは、日本人の応募者の方が勝った感があります。様々な表現が氾濫しさらに猛スピードで時代が変化する中で、アートが表現する課題は何なのか? ドキッとさせられるもっと迫りくる新鮮な企画を望みます。

家村佳代子 (TWSプログラム・ディレクター)

選ばれた3組の企画にはいずれもオリジナリティがあり、インスタレーションの完成度の高さ、テーマについての着眼点のユニークさ、未熟さと裏腹な未分化なパワーを感じさせる点などが選ばれた要因であろう。コンセプト、プランを空間においていかに効果的に実現していくか、次の段階における課題も多い。

全体としては内容をうまく伝えきれず自己完結に留まってしまったもの、体裁のみを整え説得力に欠けるプランが多かったが、一方で斬新な視点や現代の様相を鋭く捉えたものも見受けられ、今後はそれをさらに深く掘り下げ、形にしていってほしい。

エマージングの段階ならでは発想の自由さ、柔軟さを存分に発揮し、同時にパブリックな場で展覧会を企画するプロフェッショナルへの第一歩として、頭の中のプランを具現化し、他者に伝えていく難しさを体験してほしい。

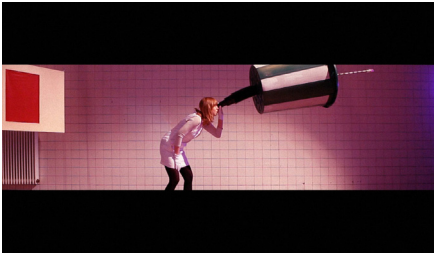
北澤ひろみ (TWSキュレーター)



クラウドディア・ラルヒャー

Claudia Larcher

ELASTIC VIDEO – curated by PLINQUE

マルクス・ハナカム&ロスヴィータ・シューラー
《Invasion》2010, フィルムスチル

ベルンド・オップル《Untitled》2010, インスタレーション風景

企画概要

オーストリアのウィーンを拠点に活動する若いアーティスト集団PLINQUE(プリンキ)は主に2008年から断続的に展覧会を行っています。様々な場所で展覧会を開き、それぞれの文脈や設定に合った内容を展開しているPLINQUEが考えるビデオの概念は、動く画像の映写という典型的な形式に束縛されることはありません。それはビデオ・スカルプチャー、サイスペシフィックなビデオ・モンタージュ、ビデオ・インスタレーションの領域にまで広がるものです。「ELASTIC VIDEO」展はマルチメディア・アートにおける現在の動向および伝統的手法の各種コンセプトを拡張し、共同のユニークなビデオ・インスタレーション作品を展示します。

企画者プロフィール

クラウドディア・ラルヒャー | Claudia Larcher

1979年、オーストリア・ブレゲンツ生まれ、ウィーン在住。アーティスト、キュレーター。2008年よりPLINQUEの展覧会キュレーションに携わる。2009年《HEIM》でクンストハーレ・ウィーン・アワード2008アニメーション部門特別賞受賞。オーストリア文化省スタジオグラント2010参加。

参加アーティスト

マルクス・ハナカム&ロスヴィータ・シューラー、リディ・シェフクネヒト、アルミン・B・ヴァグナー、クラウドディア・ラルヒャー(以上、PLINQUE)

クリスティアン・ルシツカ、ザーシャ・ピルカー、ベルンド・オップル、デヤン・カルジェロヴィッチ、マヌエラ・マーク

後援

在日オーストラリア大使館 文化フォーラム

企画Webサイト

<http://www.plinque.info>

オーストリア文化フォーラム

佐々木 友輔 | Yusuke Sasaki | floating view " 郊外 " からうまれるアート

笹川治子《うつろい戦士》2009、インスタレーション風景
東京藝術大学大学美術館取手館、茨城

石塚つばさ《mother》2008、井野田地でのインスタレーション風景

企画概要

ロードサイドに建設されたショッピングモールやファミリーレストラン、立ち並ぶ団地、真新しい一戸建ての家々。日本中至る所で見ることの出来るこうした郊外の風景は、景観の破壊や故郷喪失、地域共同体の欠如など、これまで多くの批判に曝されてきました。しかし今では東京などの大都市でも、郊外都市と見紛うような風景に出くわすことが珍しくありません。グローバル化の進行によって、世界全体が郊外的な環境に覆われようとしています。郊外の問題は誰にとっても切実なものとなりつつあるのです。

本展は、郊外的環境から生まれたアーティスト、そして郊外的環境を自らの手で改変・更新していこうとするアーティストを取り上げた展覧会です。技術革新に任せた楽観論で盲目的に突き進むのでもなければ、戻ることの出来ない過去を礼賛する懐古主義に陥ってしまうでもない、郊外的環境に生きる私たちの新たな生の在り方を模索するかつてない試みです。オーストリアのウィーンを拠点に活動する若いアーティスト集団PLINQUE(プリンキ)は主に2008年から断続的に展覧会を行っています。様々な場所で展覧会を開き、それぞれの文脈や設定に合った内容を展開しているPLINQUEが考えるビデオの概念は、動く画像の映写という典型的な形式に束縛されることはありません。それはビデオ・スクラプチャー、サイトスペシフィックなビデオ・モンタージュ、ビデオ・インスタレーションの領域にまで広がるものです。「ELASTIC VIDEO」展は、マルチメディア・アートにおける現在の動向および伝統的手法の各種コンセプトを拡張し、共同のユニークなビデオ・インスタレーション作品を展示します。

企画者プロフィール

佐々木友輔 | Yusuke Sasaki

1985年兵庫県生まれ。映像作家、企画者。高校時代に制作した映画「手紙」でイメージフォーラムフェスティバル2003一般公募部門大賞受賞。その後は映像表現を中心に、アートプロジェクトや舞台芸術、展覧会企画など様々な領域を横断して活動している。2010年には秋葉原の通り魔事件を題材にした映画「夢ばかり、眠りはない」を制作、UPLINK FACTORYで上映され「風景映画の現代的な更新」として大きな評判を呼ぶ。その他の主な上映・展示に、バンクーバー国際映画祭、ロッテルダム国際映画祭、ロンドン映画祭、平山郁夫賞 受賞顕彰展「デジャメーヴウ 既／未視感」など。現在、東京芸術大学大学院博士後期課程在籍中。

企画者ウェブサイト | <http://qsps996.exblog.jp/>

参加アーティスト

佐々木友輔、石塚つばさ、笹川治子、遠藤祐輔、川部良太、ni_ka、田代未来子、清野仁美、渡邊大輔、藤田直哉

スタッフ

中山亜美 (Art Manager)、坂田希究 (Designer)

協賛

株式会社シアーズ

SEARS
media communication & system

企画Webサイト

http://qsps996.com/floating_view/

松井えり菜・村上華子 | Erina Matsui, Hanako Murakami | Girlfriends Forever!



松井えり菜《座敷わらし〜フランス大使館風ドコモダケ添え〜》2009
Courtesy of 山本現代



長井朋子《お見舞いきてくれてありがとう》2010
パネルに紙、水彩、色鉛筆、インク
Courtesy of 小山登美夫ギャラリー

企画概要

美術大学には女性が多いのに、アーティストとして活躍し続ける女性が少ない(ように見える)のはなぜでしょうか?

"Girlfriends Forever!"は、若手アーティストの中でもひとときわ活躍している松井えり菜(84年生)と、コンセプチュアルな作品で知られる村上華子(84年生)が、同世代の作品を広く紹介するとともに、既に長く活躍しているアーティストも迎えて女性アーティストの来るべき未来像を考えるための展覧会です。個性的で華やかなイメージのある作家生活ですが、一方で長く制作を続けることは決して楽なことではないことも事実です。本展では、その2つの側面を"Girlfriendsの昼と夜"としてトーキョーワンダーサイト本郷の最上階を女性の部屋に見立てつつ、空間の隅々までアーティストの作品で満たします。壁にかかる絵だけでなく映像や家具まで、アーティストによるキュレーションならではの遊び心満載の空間が期待できます。会期中は参加アーティストのトークショーを兼ねたティーパーティーなどを予定し、世代や分野を超えた交流を図ります。

企画者プロフィール

松井えり菜 | Erina Matsui

1984年岡山県生まれ。美術予備校の文化祭での大賞受賞作品《えびちり大好き》が同校の広告として美術雑誌に掲載され、同作品でGEISAI#6の金賞を受賞。以後、カルティエ現代美術でのグループ展「私はそれを夢見る」参加の他、2007年に初個展「わたしの小宇宙(コスモ)」を山本現代にて開催。同年11月ジョアン・ミロ財団(バルセロナ)で個展、2009年モスクワ・ビエンナーレに参加など国際的に活動中。

村上華子 | Hanako Murakami

1984年生まれ。東京大学文学部で美学を専攻後、東京藝術大学大学院映像研究科修了。大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ2006、2009に参加。2009年5月~2010年3月までTWS 青山: クリエーター・イン・レジデンスにて国内クリエイター制作交流プログラム参加。記憶喪失になったエンジニアや、火事で燃えた家を鑑賞者に譲ろうとする少女などの存在をつくり上げる、コンセプチュアルな作品を発表している。

参加アーティスト

松井えり菜、村上華子、今津景、金森香(シアタープロダクツ)、小平透子、辰野登恵子、津田道子、長井朋子、中村友紀、松原慈、モム&ノエス

企画 Web サイト

<http://girlfriendsforever2011.blogspot.com/>